

『Logical English Reading』を活用したディベートの授業

長田 美佐 先生 (埼玉県立大宮高等学校)

1. はじめに

勤務校では十数年にわたり、主に1年生の英語表現(現論理表現)の時間のうち2週間に1回のチームティーチング(以下 TT)の時間(65分)で OREEO 型意見文とディベートを導入しています。①コミュニケーション英語や文法学習でインプットした知識を使って定着させること、②論理的で批判的な思考や説得力のある表現方法を学ぶこと、③社会的な話題に視野を広げることがその目的です。

ただ、この目的に適した高校1年生の教科書はなかなかなく、内容、レベル、量、価格的にも適切な教材を求め続けていたところ、一昨年、河野周先生の Logical English Reading(三省堂)が出版されました。①ディベート界の大御所である河野先生の著書であり、②身近なものから社会的な論題へと展開され、③全てに肯定否定両サイドの AREA(又は OREO)型のスピーチサンプルや、サポートや反駁の具体例を問う問題があり、④付属の音声・解答解説・ワークブックを使って語彙・論点・背景知識を家庭で予習復習できるなど、その構成に惹かれ、1学年での Level 1 と2の採用が決まりました。

また同時期に、2024年の全英連埼玉大会に向けて、英語科全体の共同研究としてこの授業を見直す機会を得ました。型に沿って思考力を使いながら英語を使う機会だけに終わらず、より多くの生徒が自信をもって論理的な文章を書けるように、生徒の躓きを検証して解決策を探ることにしたのです。本稿ではその試行錯誤を経て現在行っている授業について紹介します。

2. 3年間の流れ

考査ごとに Logical English Reading(以下 LER)の2レッスンを範囲とし、授業では主に1レッスンを扱う。考査範囲外のレッスンは、長期休暇中の読解聴解の宿題にする。2学年は ALT との TT がないので、JTE2人の TT で、残りのトピックや教科書のトピックを扱う。

① 1学年前期(4月～7月の5回):OREEO 導入

【トピック】 Level 1 L1 宿題禁止・(L7 オンライン授業)・L5 SNS 実名・(L6 オンラインゲーム是非)
『OREEO(Opinion/Reason/Example/Explanation/Opinion)』型スピーチの作成と発表。

② 1学年後期(9月～2月の8回):ディベートの段階的導入

【トピック】 L4 国公立大学無償化・(Level2 L1大学秋入学)・L6 肥満税・L7 カジノ・L2 飛び級・(L3 ビューティーコンテスト)

『Present Situation/Effect/Impact』型のコンストラクティブスピーチ(以下コンスト)の作成と発表
⇒アタックの追加⇒ディフェンスの追加⇒『コンスト/アタック(譲歩)/ディフェンス』型のエッセイ作成。

③ 2 学年(年間11回):準備型ディベート

【トピック】 ボランティア活動義務化・制服廃止・義務投票制・ベジタリアン・ベーシックインカム・アフターマティブアクション

④ 3 学年:即興型ディベート(予定)

3. 1学年時の基本的な授業の流れ

① 授業は2回を1組とし、1回目に導入活動、2回目に発表活動をする。

② 1回目の予習として LER の該当レッスン4頁分を課す。生徒は授業前に、リスニングとリーディングで語彙と論点を確認し、論理的思考のための練習問題を解いて答え合わせをしておく。

- ③ 授業では、生徒同士や生徒と教師のやり取りを通して、サンプルスピーチの論点や論理構成を整理しながらトピックの理解を深めたり、批判的に読んで改善点を搜したりする。改善点については、ディベートへの発展を意識して、many や some を具体的な数字にしたり、適切な事例*を足したりすると論が強くなることに気づかせる。

*慶応大学 SFC 発の「論理コミュニケーション」によれば、「事例＝エビデンス(事実である事象)」とし、具体的には「観察(経験)・実験・文献」と説明している。新聞などで見聞きしたこと(観察)や、実際の自分の経験も、詳細(5W1H)を正確に述べれば事例となる。

- ④ 2回目の予習に事例の入った OREEO 型の1分間スピーチを課す。肯定否定は着席列ごとに指定する。
- ⑤ 授業では、スピーチの発表+QA のペア活動を3回行う。1回目は原稿を見てもよいが、3回目には原稿を見ずにスピーチする。4人組で1回目は横の人、2回目は縦の人、3回目は斜めの人と組んで全員のスピーチを聞いてベストスピーチを選ぶ**。

**グループ活動をペア活動に分割することで、全員が常に能動的に活動できるので、この授業に限らず頻繁に使えるフォーマット。

人数が合わない場合は教員もグループに入る。6人グループの場合は、向かい列の3人と順に組んで列ごとに1人選ぶ(下図)。

1回目 A ⇔ D	2回目 A ⇔ E	3回目 A ⇔ F	
B ⇔ E	B ⇔ F	B ⇔ D	➔ ABC で協議して EDF から1人、EDF で協議して ABC から1人選ぶ
C ⇔ F	C ⇔ D	C ⇔ E	

- ⑥ 各ベストスピーチをクラス全体に発表。スピーチごとに内容や論理構成についてグループで話したりクラスで共有したりする。教師も優れた点と改善点をコメントして、OREEO 型について全体の理解を深めさせる。

コメント例) たとえば、‘AI does more harm than good to the academic ability of young people.’のスピーチでは、
 ”What was good about your speech is that you defined academic ability as thinking ability. This made your idea clear. One area for improvement is that this definition came at the end. If you had defined it at the beginning, your message would have been clearer.”

”The example of your friend was well-explained and easy to understand. However, you only mentioned his frequent use of AI without discussing its impact on his academic ability. Therefore, that example doesn’t fully support your opinion. Make sure to link your explanation back to your opinion, then you will notice what is missing in your speech.”



- ⑦ 学期ごとに1回、扱ったトピックから各自選択して、1分間スピーチを行い内容とデリバリーを評価する。
- ⑧ 考査は、モデルスピーチをいくつか作成し、読解聴解力を測る問題に加えて、論理展開に関しても、足りない情報を指摘する、サポートする具体例を選ぶ、批判的質問をする等を出題し、その理解を確認する機会と位置付ける。
- ⑨ ディベートスピーチ導入の際も基本的な流れは同様で、LERのサンプルスピーチをもとに、まずコンスト、次にアタック、そしてディフェンス、とトピックごとに付け足し、同じ型を練習する。評価はコンストとアタックのペア発表と、1年間の集大成としてのエッセイで行う***。

***エッセイの評価シートには、生徒の躓きやすいところを具体的に記して、エッセイを書く際のチェックシートを兼ねる。資料参照。

4. 2学年時の基本的な授業の流れ

- ① 1年次と同様に授業は2回を1組とし、1回目に導入、2回目にディベートをする。
 - ② 1時間目は予習なしで、自分たちで論(R)を思いつくための導入をする。具体的には、
(1)自分事と捉えるための質問****について、教師が見本を見せた後ペアで Q&A。
- ****質問例「義務投票制」
- ‘What do you think about the nine candidates in the current LDP presidential race?’
 ‘Which candidate do you think is the right person? Why do you think so?’
 ‘Would you go to the poll if you were eligible to vote in the next general election? Why?(Why not?)’
- (2)背景解説。グラフ等を用いてやり取りをしながら説明したり、ネット上の映像を活用したりする。
 - (3)全体で論題分析(各語の定義の確認)やアクター分析(関わる人・団体)。
 - (4)各自「どんな good や harm がある(起こる)か」をブレインストーミングして、ペアで共有。
- ③ 宿題で2週間後のディベートに向けてコンストを書く。肯定否定のサイドは着席列で決めて、論が偏らないように、2人組で別の論点とする。
 - ④ 2時間目にミニディベートを行う。肯定否定各1名にジャッジの3人組で組み合わせや役割を変える*****。各試合は『コンスト+QA で3分、準備2分、アタック1分、QA と準備で2分、ディフェンス1分、ジャッジコメント1分』の20分。繰り返していくうちに、準備時間を減らしたりしながら、1時間(65分)で3試合できるようになった。



*****組み合わせを示した座席表を毎回パワーポイントで示す。全員がジャッジを1回、ディベートを2回する。基本的にペア対ペアの対戦で、ジャッジは残りのペアを分けて充てる(下図)。教員用もスピーチを用意しておいて、適宜人数合わせに入る。ジャッジ用のルーブリックは資料参照。

肯定列	否定列	1回戦	2回戦	3回戦
A	G	① A 対 G C がジャッジ	① A 対 H F がジャッジ	① C 対 J A がジャッジ
B	H	② B 対 H I がジャッジ	② B 対 G L がジャッジ	② D 対 I G がジャッジ
C	I	③ E 対 K D がジャッジ	③ C 対 I E がジャッジ	③ E 対 L B がジャッジ
D	J	④ F 対 L J がジャッジ	④ D 対 J K がジャッジ	④ F 対 K H がジャッジ
E	K	★ペアごとに席を移動して中のペアが分かれて前後のグループをジャッジすることを基本とする。		
F	L			

- ⑤ 評価は1年次と同様の定期考査と、同じ型のエッセイで行う。

5. 生徒(及び教員)のつまずきと対策

- ① OREEO 型のREEがわかりにくい。

「R 理由」「E 例」「E 説明」といっても、「理由」を「若者に害がある」のように統括的(抽象的)に設定すると、次の「例」が「理由」の細分化(具体化)で終わってしまい、「理由」を支える『事例(事実) = エビデンス』に行きつかない。また、理由の説明が先に長々と続いてしまうことが多い。

⇒「理由」は具体的に『〇〇という良いこと(good)または悪いこと(harm)がある(起こる)から』とする。

「例」は『事例』と用語を変更し、「理由」は簡潔に1文で延べて、これを証明する『事例』をすぐに述べ、その後の「説明」で「理由」にリンクさせる。リンクできなければ、『事例』が適切でないことになるので『事例』を見直す。

- ② 適切な『事例(事実)』がみつからない。

生徒にとっては、これが最もやっかいで、自分の観察(経験)の引き出しを掘り起こすか、検索エンジンに頼るかとなるが、欲しいものがなかなか出てこない。

⇒思いついたり検索で見つかったりした『事例(事実)』から理由を逆算して意見を決めたり、修正したりする。Google Scholar 等を使った検索方法を指導したり、有用な論文、調査、グラフ等を資料として紹介したりする。

- ③ ディベートスピーチの型とOREEOが一致しない。

本校が取り入れているHENDA型のコンストラクティブスピーチでは、OREEOのEEの位置に「Present Situation(PS)⇒Effect(EF)⇒Impact(IM)」を組み込んでRを証明するが、この3つのパートをそれぞれOREEO(正確にはR抜きのOEEO)で証明するという入れ子構造になっている。全体のOと区別しにくかったり、「日本の高校生は忙しい」という現状を「意見」と呼ぶのは語感に合わなかったりするため混乱する。

⇒入れ子のOをPoint(P)としてOEEOをPEEL*****と置き換えて区別する。OREEOと同様に主張したいポイント(論点)を最初の1文で述べることで聞き手に準備ができてわかりやすいことを指導する。

*****PEEL(Point/Evidence/Explanation/Link)Writingという型がある。OREO, AREAと趣旨は同じだが、個人的には一番わかりやすいと思っていて、長年馴染んでいるOREEOから移行するか検討中。

④ 反駁の型と OREEO

反駁(防御も)の型として、“You said …, but that’s not true/important.”を示すが、true と important の使い分けがわかりにくく、この後が続かない。

⇒反駁も OREEO の型を取っていて、“You said …, but that’s not true/important.”が意見(O)であり、その後の REEO で意見をサポートすることを確認する。

“not true”の後には、相手の言っていることの誤りを指摘したり、関連がない(not relevant)ことを説明したりする。“not important”は“might be true, but not important”であり、言っていることは誤りではないが、影響が小さいことや、他の解決法(alternative)がある(not unique)ことなどを説明する。

⑤ 相手の論(PEEL)でなく、意見(OR)に反駁してしまう。

LER の特徴として、各スピーチに、サポートと反駁として適切な具体例を選ぶ問いがあり、反駁は相手の言ったことに言及するのであって、別の論を出すことでないことが解説されている。たとえば、「宿題は学びを助け、学習の習慣がつき成績が上がるから必要」という論への反駁は、「習慣はつかない」「成績は上がらない」ことを証明して、だから「学びを助けていない」ので「成績は上がらない」から「宿題はいらない」であり、「自分の好きなことをすべきだ」から「廃止すべきだ」という自分の主張をすることではない。

⇒“You said …”の…には、相手の OR でなく PEEL 内容を入れることを徹底し、反駁の対象を明確にする。

【授業の様子】



6. おわりに

OREEO にしてもディベートスピーチにしても、一定の『型』があると指導しやすく、またそれをマスターできれば応用も効き、マスターした生徒からは卒業後も役に立っているという声を聞きます。けれども、実はこの型が単純そうに見えてなかなか難しいことを再認識したのがこの2年間でした。よき教材と共同研究の機会を得て、生徒の授業での様子や提出物などをもとに教員間で疑問点を持ち寄って話し合いをしたおかげで、多くの発見があり、より自信をもって指導する体制もできてきました。

型のマスターのためには、継続して機会を設けることも必要です。本校ではコミュニケーション英語の時間に、帯活動の即興型スピーチや課ごとに1つの準備型スピーチを同様のグループ活動で行っています。その際に、You said… からの QA で相手の話と関連付けさせたり、教師からの Feedback に OREEO の観点を入れたりすることで、効果が上がっているようです。また、年2回のプレゼンテーションは、Rule of Three の型を使いますが、その際に「現状・解決策・重要性」というディベートスピーチの構成で実施するのも、型の理解を促すようです。先日行った際には、エビデンスの使い方が上手になっているのに感心しました。

今後は、2学年で型を覚えたディベート活動について、3学年では準備の負担は少ないものの英語力と思考力がより必要とされる即興型で継続していくことを計画しています。また、大学入試の日本語での小論文にも役立てたいと考えています。

資料として添付したエッセイとディベートの評価資料は、まだまだ改善の余地があると思います。ご質問やご助言をお寄せいただけると幸いです。

プロフィール



長田 美佐 おさだ・みさ (埼玉県立大宮高等学校)

2007 年より埼玉県立大宮高等学校に勤務。初任の頃より埼玉県英語教育研究会の調査研究研修部に属し、埼玉県の英語授業研究に関わってきた。現勤務校では、意欲のある英語科と生徒たちに支えられながら、英語部の指導を通して学んだディベートの手法を活かして、生徒の英語力と思考力・表現力を高める指導方法を模索している。

Logic and Expression

class no. name

Constructive speech for the next class (less than 150 words)

PRO/CON

Reason:What will happen? ()

OR

PS bad/good

EF

IM

OR

Possible Attack & Defense

Speech/Essay Evaluation Criteria			Score	
Constructive Speech	O	Stated in one simple sentence. (1文で簡潔に述べられている)	1	2
	R	One concrete benefit[harm] in a simple sentence. (具体的な益[害]理由が簡潔に述べられている)	1	
	PS	Describes a bad[good] situation that requires[doesn't require] the policy. (政策を必要とする[しない] 悪い[良い]現状が述べられている)	2	4
		Supported by at least one appropriate fact. (1つ以上の適切な事例で証明されている。)	2	
	EF	Describes the process how the policy will benefit[harm] . (益[害]が発生する過程が論理的に説明されている)	2	4
		Supported by at least one appropriate evidence. (1つ以上の適切な事例で証明されている。)	2	
	IM	Describes who will get benefits[harms] from the policy and how significant it is. (誰が益[害]を受けその影響がどれほど大きいかが説明している)	2	4
		Supported by at least one appropriate evidence. (1つ以上の適切な事例で証明されている。)	2	
ATT(譲歩)	Refuting against at least one part of PS/EF/IM. (PS/EF/IMに対して反駁している。)	2	4	
	Supported by at least one appropriate evidence. (1つ以上の適切な事例で証明されている。)	2		
DEF	Refuting against the attack by showing your superiority in possibility or value. (ATTに対して反駁して、自分の論の可能性や価値が高いことを述べている)	2	4	
	Supported by evidence or logical explanation. (事例もしくは論理的な説明で証明されている。)	2		
OR (Conclusion)	Stated in a different expression from the 1st paragraph. (第1段落と違う表現で述べられている)	2	2	
Entire	The text flows consistently and logically : No irrelevant information, No logic jump. (文章が一貫していて論理が飛ばない、余分な情報が混在しない。)		3	
	Point first and evidence & explanation next. (主張が先・事例や説明は後)		3	
	Appropriate use of connecting words. (適切なつなぎ言葉)			
	No grammar errors [5 check points + α] (文法チェック：①名詞の数 ②冠詞③動詞の時制・態④一致⑤つなぎ+スペル・句読点)		6	
	Word choice : persuasive, not ambiguous, not too difficult (難しすぎない・あいまいでない・説得力のある語の使用)			
total			36	

Rubric for Debate Score					
	4	3	2	1	0
Reason			Concrete benefit [harm] (possible effect) is clearly stated in a simple sentence.	Benefit[harm] (possible effect) is stated, but it's not concrete, too general, or not clearly in a simple sentence.	Benefit[harm] (possible effect) is not stated or no reason is stated.
PS	The present bad[good] situation related to the reason is stated with appropriate evidence.	The present bad[good] situation related to the reason is stated, but the evidence is insufficient or inappropriate.	The present bad[good] situation related to the reason is stated, but no evidence. Or only evidence is stated.	The present situation is stated but not well-connected to the reason.	The present situation is not stated or something irrelevant to the reason is stated.
EF	The process of the benefit [harm] is well-explained step by step. Appropriate evidence supports all the process.	The process of the benefit [harm] is well-explained step by step but some evidence is lacking or inappropriate.	The process of the benefit [harm] is explained somehow. some appropriate evidence is used.	The process of the benefit [harm] is explained minimally. Evidence is lacking or inappropriate.	The process of the benefit [harm] is not stated or something irrelevant is stated.
IM	The importance of the benefit[harm] is well-explained and supported by appropriate evidence.	The importance of the benefit[harm] is well-explained but some evidence is lacking or inappropriate.	The importance of the benefit[harm] is explained somehow. some appropriate evidence is used	The importance of the benefit[harm] is explained minimally. Evidence is lacking or inappropriate.	The importance of the benefit[harm] is not stated or something irrelevant is stated.
	-4	-3	-2	-1	0
Attack 1	Attacking the relevant part of the other side's speech using evidence and an explanation.	Attacking the relevant part of the other side's speech but some evidence and explanation is lacking.	Attacking the relevant part of the other side's speech but with minimal evidence and explanation.	Attacking the relevant part of the other side's speech but no evidence and explanation.	No attack or something irrelevant to the other side's speech is stated.
Attack 2	Attacking the relevant part of the other side's speech using evidence and an explanation.	Attacking the relevant part of the other side's speech but some evidence and explanation is lacking.	Attacking the relevant part of the other side's speech but with minimal evidence and explanation.	Attacking the relevant part of the other side's speech but no evidence and explanation.	No attack or something irrelevant to the other side's speech is stated.
	4	3	2	1	0
Defense 1	Attacking the relevant part of the attack speech using evidence and an explanation.	Attacking the relevant part of the attack speech but some evidence and explanation is lacking.	Attacking the relevant part of the attack speech but with minimal evidence and explanation.	Attacking the relevant part of the attack speech but no evidence and explanation.	No defense or something irrelevant to the attack speech is stated.
Defense 2	Attacking the relevant part of the attack speech using evidence and an explanation.	Attacking the relevant part of the attack speech but some evidence and explanation is lacking.	Attacking the relevant part of the attack speech but with minimal evidence and explanation.	Attacking the relevant part of the attack speech but no evidence and explanation.	No defense or something irrelevant to the attack speech is stated.